

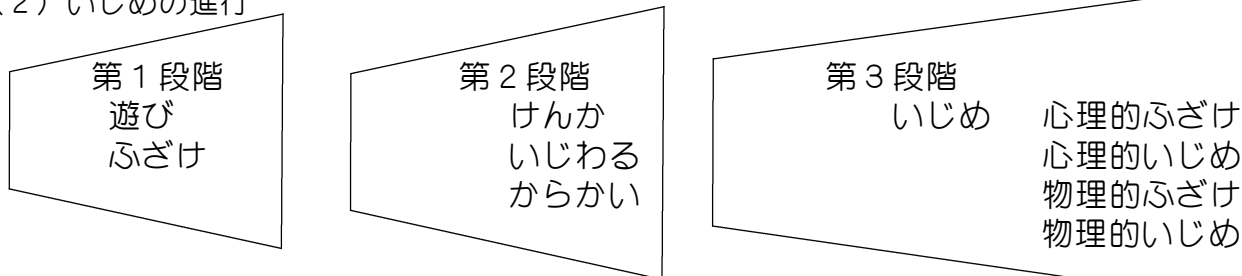
# いじめの理解

## (1) いじめとは何か

児童生徒が、一定の人間関係のある者から心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

(平成19年度からの文部科学省の新しい定義による)

## (2) いじめの進行



## (3) いじめの変遷

発生と内容		「いじめ」の態様・内容		
		いじめられる側	いじている側	
変遷過程		個の行動・状況	複数の行動・状況	
学校の対応・関係機関との連携	群れ遊び	◎遊びや生活をとおして、互いにふざけたり・じゃれ合ったり・いさかいがあつたりする。(「遊び仲間」対等・平等関係)		
	初期	萌芽	・度重なるふざけ・からかいなどを不快に感じるようになる(支配・服従関係の萌芽)	・立場を入れ替えながら、ふざけ・いじわる・からかいなどを行うようになる(支配・服従関係の萌芽)
		恐れ	・多人数による「いじめ」に恐れを感じるようになる(支配・服従関係の成立)	・ターゲットを固定し、仲間を誘い複数で「いじめ」を繰り返す(仲間の存在、安心感)
	前期	訴え	・周囲の仲間、友達の行動や態度が気になる(いじめのサイン)	・周囲の仲間の反応を気にして見ている(いわゆる「チクリ」の心配)
		諦め	・無関心を装い、傍観的な態度の友達を見て「訴え」を諦める(見て見ぬふりをする人間関係)	・周囲の動向を見定め、仲間に「いじめ」を示唆、命令する(自己のいじめ隠蔽)
	後期	無力	・親や教師に訴えた後の報復や暴力などを極端に恐れる(訴える気持ちにならない状況)	・暴力行為等をしばしば繰り返す(本人及び周囲の友達に対する「チクリ」の防止策)
		自尊	・「いじめ」そのものの事実を自ら否定する(自尊感情の動揺)	・暴力行為の他に金品の強要、使い走り等が生じる(チクリ・訴え等絶無の感触)
末期	否定	・耐えきれず「自殺・転校」等を考えるようになる(自己否定の考え方の実行)	・暴力行為や金品の強要などが学校内外でますます激しくなる(「無法」といえる状態への発展・継続)	

## (4) いじめの態様

### 手段によるいじめ

- ① 言葉での脅し
- ② 冷やかす・からかい
- ③ 持ち物隠し
- ④ 仲間はずれ
- ⑤ 集団による無視
- ⑥ 暴力をふるう
- ⑦ たかり
- ⑧ お節介・親切の押しつけ
- ⑨ いやな行為の強要
- ⑩ パソコン等での誹謗中傷 等

### 動機によるいじめ

- A 怒りや憎しみからのいじめ
- B うつぶん晴らしからのいじめ
- C 性格的な偏りからのいじめ
- D 関心を引くためのいじめ
- E 隠された楽しみのためのいじめ
- F 仲間を引き入れるためのいじめ
- G 違和感からのいじめ
- H その他

## 構成によるいじめ

I 単独

II 数名

III 大勢